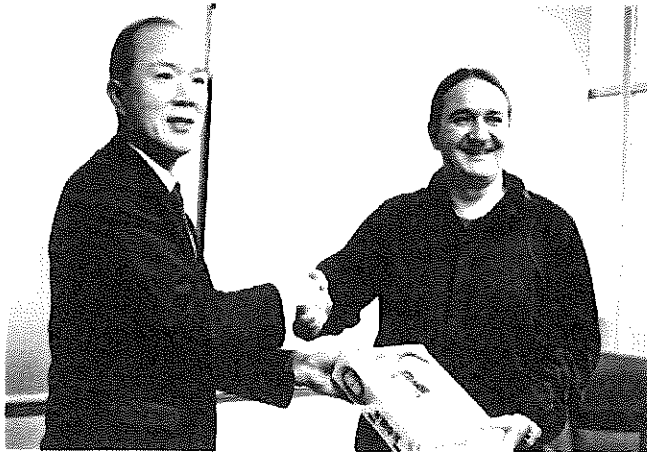


仏業者 木頭ゆず輸入



木頭ゆずを輸入することを決め、中西組合長と握手するシエムニさん＝阿南市のJ Aアグリあなん

J Aあなんから240キロ 担当者、現場視察で決定

EU向け初

生鮮食品の卸売市場で世界最大規模とされるフランス・ランジス市場の仲卸担当者が25、26の両日、木頭ゆず視察のため那賀町木頭を訪れ、J Aアグリあなん（阿南市）から木頭ゆず約240キロを仕入れることを決めた。厳格な検疫基準を持つEU向けに県産ユズの青果が輸出されるのは初めて。

訪れたのはパリに隣接するランジス市場のジャン・シエムニさん（43）。10月19～23日にパリで開かれた欧州最大規模の食品見本市「シアル2014」で、J Aアグリあなんが出品した木頭ゆずに関心を示していたことから県が産地視察に招いた。

25日は、EUへの輸出に向けて病害虫の発生防止に配慮するなど特別な栽培態勢を取っている生産者のユズ園や搾汁工場を視察。26日は収穫されたユズが集まるJ Aアグリあなん木頭事業所や加工品の販売会社などを見て回った。

シエムニさんは「品質が素晴らしい」と木頭ゆずを絶賛、その場で商談が成立した。J Aアグリあなんの中西庄次郎組合長は「今後指名してもらいたい」と継続的な取引を要請。シエムニさんは前向きに検討する意向を示した。

今回の販売価格は市場価格の1・5～2倍の1キロ（6～15個入り）1500～3千円。フランスでの卸売価格は輸送費や関税が上乗せされるため、この2倍程度となる。シエムニさんは「木頭ゆずは高品質だが、フランスで浸透するかどうかは価格がネックだ」と話した。

中西組合長は「初の青果輸出に木頭ゆず生産者の喜びは大きく、フランスを守っていく上での力になるだろう。J Aとしても可能な限り支援していきたい」と述べた。

EU域内でユズは料理や菓子の香り付けとして人気が高まっているが、ほとんど栽培されていない。県内からEUにはユズ加工品が輸出されており、県やJ Aでは青果にも需要があるとみて特別栽培の支援を進めていた。

（久保高茂）